

「学び創造アクティブPLUS」

市では、子どもたちに「確かな学力」を育成することを目指して、「学び創造アクティブPLUS」を策定しました。この事業は、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの学力向上を図ろうとするものです。

家庭における学習・読書の習慣が身に付いていたり、SNS・ゲーム等について家庭内で話し合っただけで約束を決めていたりする児童は、学力が高い傾向にあることがわかってきました。

そのため、家庭学習の定着を図り、家族との語らいの中で、メディアとの付き合い方等の生活習慣について考えることを推奨します。

メディアとの付き合い方

メディアについてのルールを家庭で決めて取り組むことで、メディアと上手に付き合えるようにしましょう

ルールは、
具体的な内容
を決めよう



家族の中での役割分担

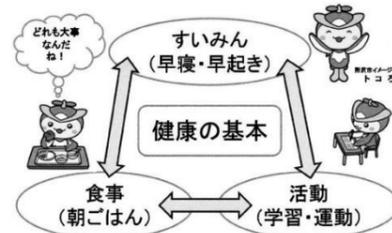
子どもたちが家庭での役割を担い、その取組を認められることで自己肯定感を高められるようにしましょう

ごみ捨て
食器運び
もいっしょ



早寝・早起き・朝ごはん

早寝・早起きは、いのちのリズム！
1日のスタートは、朝ごはんから！
我が家のルールを決め、生活リズムを整えましょう



家読(うちどく)の推進

毎月23日は
家読(うちどく)の日

好きな本や
図書館で
借りた本を



親子や
家族と
一緒に...

毎月23日を『家読(うちどく)の日』としています。本は、教科書や授業だけでは学ぶことのできないさまざまなことも教えてくれます。親子・家族で読書をしましょう。きっと楽しいひとときとなりますよ。

その子のよさや可能性を大切に ～可能性を開かず横並び思考～

子どもたちには一人一人、その子のよさや可能性がありまます。それは、子どもの夢や希望へとつながっていきます。

日頃、親は、どのような声かけをしているのでしょうか。その子の特性を配慮しながら、結果の善し悪しだけでなく、努力の過程を認めたり、ほめたりしているのでしょうか。子どもは親のほめかた一つで、親の願いを敏感に受け止め、期待に応えようと必死にがんばります。そして期待に応えられない時、子どもは不安となり自信をなくしていきます。他の子と比べたり、何でも同じようにしたりという横並びの思考は、子どものよさや可能性を閉ざし、伸び伸びと成長していこうとする力を妨げてしまいます。

親は我が子の特性をよく理解し、その子にとって何が大事なのかを考え、支援していくことが大切です。

「はい」と返事 明るい家庭

あいさつ・笑顔・わらい声

① はようございます

② ありがとうございます

③ つれいします

④ みません



命の大切さ教えていますか～自尊感情を育てる～

子どもたちが自らの命を絶つことや他者を傷つけたり、命を奪ったりする事件が起こっています。子どもたちの命の重みに対する感受性が弱まっているようです。入学した児童に命の大切さを伝えるには、家族や社会との関係が重要です。

まず、成就感・達成感や周囲からの愛情を実感させることを通して、自分自身をかけたがえのない大切な存在と思えるような「自尊感情」を育むことが基礎となります。また、自然に触れる体験活動や人との繋がりを実感できる社会体験活動、誕生・成長等の喜びや老いに触れる体験、死の悲しみを感ずる体験等を通して、感性や想像力を豊かにすることも大切です。このような活動は家庭だけではできません。家庭・学校・地域がそれぞれの役割をしっかりと自覚し、手を取り合っただけで進めることが大切です。

友だちを大切に ～子ども同士の人間関係～

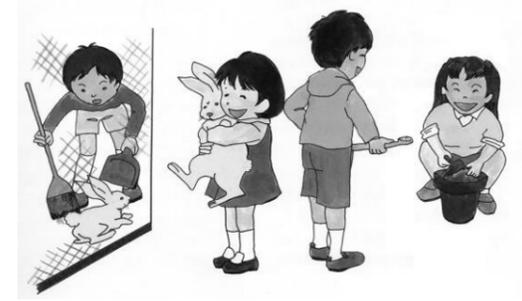
友だちを強く意識するようになるのは、小学校へ入学した頃からでしょうか。

子どもは経験を通して人間関係を学びます。いつも自分勝手では、友だちはできないとわかっています。

子ども同士の関わりの中で自分の思いどおりにならないことを学び、その体験の中でがまんすることを覚えていきます。大人との関係とは異なり、甘えが許されないのです。

ある調査では、日本の子どもたちの友人関係について「いじめを注意したこと」「悪いことをしている友だちを注意したこと」などがあまりないという結果が報告されています。

人間関係は質より量の時期もあれば、量より質の時期もあります。人に対する信頼感情は子ども時代に身に付くとされています。子ども同士の人間関係を温かく見守っていきましょう。



子どもの自立心を育てよう ～親自身の学び～

子どもが自立するとはどんな姿でしょうか。幼児期から児童期という発達段階から考えると、この時期は学びの基礎力の育成時期にあり、3つの自立が重要です。それは「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」です。家庭生活では主に生活上と精神的な自立を促すことが大切です。「生活上の自立」とは身の回りのことができ、自らよりよい生活を創り出すことです。「精神的な自立」とは自分のよさに気づき、夢や希望を持って前向きに生活することです。これらは毎日の生活の中で身に付くことが多いようです。では、どのようにしたら身に付くのでしょうか。日本には良い言葉があります。「カエルの子はカエル」です。子どもは生まれた時から親のまねをして育ちます。親が自立していれば、子どももそれを見て自立します。将来、道に迷った時に、自立した親の姿を思い出し、がんばれます。育児は育自です。